

ENC2005 開会セッションにおける加納時男スピーチ・要旨

持続的成長に不可欠な原子力の平和・安全な利用

先進国経済の成熟化、中・印など途上国の急速な経済発展の結果、地球レベルでの資源・エネルギー需給の逼迫と気候変動が懸念される。

これらの制約条件を克服し「持続的成長」を図るためのエネルギー政策は「脱炭素 De-Carbonization」が中心となる。具体的には 省エネルギー技術の開発と普及 再生可能エネの活用 化石燃料のクリーンかつ効率的利用 に加え 原子力の平和・安全な利用が不可欠だ。

あらゆる科学技術には 光と陰がある。原子力の場合も同様。陰としては技術的リスクに加えて最近では政治的、経済的、社会的リスクが大きい。これらのリスクはすべて克服可能である。自民党では8月2日に制定した「我が国原子力の基本政策」の中で リスクの明示と克服のため処方箋を示した上で 原子力の持つ光 すなわち ベースロードとしての供給安定性、環境適合性、長期経済性を享受すべきとした。

政府は 10月14日に「原子力政策大綱」を閣議決定した。党と原子力委員会の方針は整合がとれており、2030年にも原子力発電比率は30—40%以上とすること、燃料サイクルは推進すること、FBRを2050年前に実用化する事などを決めた。

課題は多いが1つ1つ解決を図っていけば不可能ではない。たとえば 安全性を高める中での稼働率の向上、高経年炉の安全レビューと地域共生策、メディアや教育への取り組み、核不拡散の国際秩序への提言と行動、CDMへの原子力の取り込みなど。

かつて石油危機のときに ご当地で流れていたCMを思い出す。
「フランスに 石油は無いが 知恵がある
(En France on n'a pas de pétrole, mais on a des idées.)」

原油価格が急騰し、地球温暖化が危惧される今こそ、「知恵」を出す時だ。
「知恵」は 「省エネ」と「原子力」だ。

以 上